



生まれ変わる立田総合運動場 活用方法は

原 裕司議員

新たな健康づくりの活動拠点を目指す
教育部長



▲大会を楽しむ社会人(立田総合運動場)

問 社会体育施設における総合運動場の目的や役割は。

答 市民の体力及び健康を増進し、スポーツの普及を図ることを目的としている。

問 総合運動場の整備状況と利用団体の協力は。

答 例えば、佐織総合運動場では、年6回の整備と、年1回の黒土等の搬入や転圧を行っている。また、土入れ時にはス

ポーツ協会加盟団体の協力がある。

立田総合運動場やスポーツセンターは、指定管理者により整備を行っている。

問 親水公園総合運動場等における利用者からの改善や修繕要望の反映は。

答 スポーツ協会が取りまとめた各団体や指定管理者からの意見等を市が確認し、総合的に判断・調整し反映している。

問 立田総合運動場は、

公益財団法人愛知県サッカー協会と契約を締結し、令和5年4月1日から、「愛知県フットボールセンター愛西」に生まれ変わる。

運動場を活用し立田、八開地区体育大会や立田納涼祭り、八開納涼大会など開催されているが、参加者の減少や大会運営の担い手不足も課題となっ

てきている。人口減少が進むにつれ地域間の交流が必要ではないか。このような大会を合同で開催する事で、地域間の人と人との交流が生まれる。

現在、学校教育において、学校の統廃合の課題もある。スポーツを通じて地域間のコミュニティを推進させることで、絆が生まれ交流が深まれば、この課題も解決できるのではないかと考える。

今後、立田総合運動場は、どのような形で市民に活用されるのか。

答 公園や施設の利用者、

地域住民、学校、商店、企業などと共同し、イベントや教室などを企画・運営し、スポーツを中心とした地域コミュニティが形成されることで、市民の健康づくりなどの新たな活動拠点となることを目指す。